

中高一貫教育 この10年をふり返って

広尾町中高一貫教育連絡協議会長
北海道広尾高等学校長

まきの さとし
牧野 敏

――広尾町中高一貫教育は SCC(Secondary Collaborated Class) の取り組みが中心となっています。広尾の子どもたち一人ひとりに応じた「きめ細やかな学習指導」を通して、「基礎基本の確実な定着」を図るために、各学校が協力して授業を行います。中高の教員が相互に乗り入れることでそれぞれの教科の特性や教員の得意分野を生かした授業実践ができるのが魅力ですが、牧野校長は SCC(Secondary Collaborated Class) をご覧になってどのような点がとても良いと思いましたか？

高等学校の教育課程を先読みし、自分の得意分野で中学校での授業を行うことで、高等学校での学習に対する興味・関心を引き出すことができます。まさに6年間を見通した教育が可能となります。また数学、体育でのチューター授業では、中学生の授業に高校生を参加させることで、中学生の学習に取り組む意欲を引き出すとともに、高校生にも学習事項の更なる定着を図ることができることです。

――広尾町中高一貫教育の取り組みの中で特に交流が盛んであるのが部活動の交流だと思います。柔道部やソフトテニス部、吹奏楽部などは部活動の交流が活発ですが、部活動交流のメリットと今後の中高の部活動のあり方についてどうお考えですか？

部活動では専門的な技術を身につけるだけではなく、我慢強さや礼儀正しさを身につける格好の機会でもあります。中高連携教育における部活動の交流では、6年間という異年齢集団の活動を通じ、他者への思いやりなど社会性や豊かな人間性を育むことができます。今後の中高の部活動のあり方については、中学校の在籍数が減少傾向にあることから、部活動の交流がますます重要になると考えます。

――広尾高校の平成28年度の入学者は43名で、そのうち連携中学校からの進学者は38名でした。連携中学校の全卒業生68名のうち広尾高校への進学者率は55.9%となっています。平成26年度と同進学者率は70%（全70名中49名入学）、平成27年度と同進学者率は56.7%（全67名中38名入学）となっています。この状況を見て、連携中学校から広尾高校への進学者を増やすにはどういう取り組みをしていくのがよいとお考えですか？

進学者の低迷は帯広市など町外への卒業生の流出が主な原因です。まずは広尾町中高一貫教育の内容を中学生の保護者の皆様に知っていただくことが重要と考えます。また、広尾高校の進路実績や部活動の取り組みをよくお伝えし、町外に出なくても親元から高校に通うことで、十分に進路実現や部活動での活躍ができることを知っていただくことが大切だと考えます。

――広尾町連携型中高一貫教育が今後も継続するにあたって、これからどのようなことがそれぞれの学校に期待されていると思いますか？

豊似中学校は今年度で閉校ですから、1、2年生が来年度、広尾中学生として元気に活躍できることを期待しています。

広尾中学校は、これからは町内唯一の中学校として広尾高校と連携し、今まで以上に連携型中高一貫教育の良さを中学校の保護者の皆様や町民の皆様知っていただくことが期待されていると思います。

最後に広尾高校ですが、これからの生徒減少期にあって、ますます入学者の確保が難しくなりますから、今まで以上に中学生やその保護者、町民の皆さんに信頼される進路実績や部活動の実績を上げていかなくてはならないと考えています。

◇まだまだお話しは尽きませんが、ひとまずはこれで中高一貫インタビューを終了させていただきます。牧野校長、貴重なお時間、ありがとうございました。今後も中学校と高校間の連携がさらにいっそう進展し、広尾町中高一貫教育が今後も継続されることを祈念してこのインタビューを終わります。

《聞き手 / 広報啓発部会 中野俊光（広尾高等学校教諭）》



広尾の子どもは広尾で育てる！

中高一貫教育10年の決算。成果と課題、これからの展望とは

平成28年3月、広尾町連携型中高一貫教育を導入し10年の節目を迎え、今年度4月から11年目に突入しました。そこで広尾町中高一貫教育連絡協議会長の牧野敏先生（北海道広尾高等学校長）に、中高一貫教育のこれまでの歩みと課題を中心にお話を伺いました。

――平成18年度に広尾町連携型中高一貫教育が導入されてから10年が過ぎましたが、この10年を振り返ってどのようなことが成果として挙げられますか？

導入当初は、中学校の選択授業において行われていたティームティーチングに限られていた連携授業が、パートナー21という全教科での乗り入れ授業という形態を経て、現在の SCC(Secondary Collaborated Class) という各学校が協力して授業を行う形態になったことです。インターンシップ発表会や中高一貫進路講話など6年間を通じて一貫して取り組む教育活動が充実していることや、特別支援部会が取り組んだ発達障害に関する研修会を小中高合同で行うなど、広尾町の教職員の連携が盛んになったことなどが挙げられると思います。

――「広尾の子どもは広尾で育てる」を合い言葉に、地域が一体となって生徒を育てているのが中高一貫教育の魅力だと思いますが、広尾の子どもたちを広尾で教育するメリットはどのようなことだと思いますか？

まずは連携の中心となる中学校と高校が、一体となって教育に当たることで子ども達の個性を早期から見抜いて伸ばす教育が可能となりました。さらに家庭や社会教育に連携の輪を拡げることで、きめ細やかな教育が可能となると思います。具体的にはオープンクラスウィークのように、保護者や町民の方々が中学校と高校の教育活動に興味を持ち、参観する機会を持って、時には意見を寄せていただくと、地域が一体となって生徒を育てることにつながると思います。

中高合同部会議を開催しました



去る4月26日(火)に広尾高校にて「中高合同部会議」を開催しました。基本理念は「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる」です。昨年度の活動を今年度に生かした計画立案について、広尾町教育委員会の関係者や広尾中学校、豊似中学校、広尾高校の教員が協議をしました。

今年度より特別支援が合同分掌部会に加わり、6つの部会に分かれて協議をしました。各部会の今年度の実践テーマを紹介します。

教育課程・学習指導部会



実践テーマ

基礎・基本を定着させ、確かな学力を向上させる
～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

特別活動・生徒指導部会



実践テーマ

- 1 学校行事の共同開催
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践

進路指導部会



実践テーマ

- 1 高校卒業後の進路決定を見据えた、6年間の進路指導の在り方の追求
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携3校で共有するシステムの構築

総学部会



実践テーマ

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長
- 3 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

広報啓発部会



実践テーマ

中高一貫だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民への、広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。

特別支援部会



実践テーマ

- 1 中高の連携・協力した指導方法・指導計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み

中高教科部会の様子

教科部会では国語科・社会科(地歴・公民)・数学科・理科・英語科・体育科・家庭科・養護の8つの部会があります。各教科部会では、生徒の興味関心を高め、学力と指導の質が向上できるよう、広尾町の生徒の実態に合わせた、具体的で実践的なプランを話し合いました。各教科の今年度の課題を紹介します。



国語科部会



課題

- 1 積極的に文章を書く意欲・態度の育成
- 2 日本の伝統的な言語文化に親しむ態度を育成する

社会科[地歴・公民]部会



課題

社会科、地歴・公民科における基礎・基本の確実な定着と表現力の育成

数学科部会



課題

各単元において、基礎的・基本的な知識、技能の習得を目指した数学活動の工夫

理科部会



課題

自然科学の事象・現象に対する興味・関心を高め、科学的に理解し、表現しようとする態度の育成

英語科部会



課題

6年間を通じて学ぶ意欲を高め、基礎基本的な知識や技能の定着を図ることのできる指導方法の工夫・改善

体育科部会



課題

- 1 中高生の運動能力の現状を把握し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める授業づくり
- 2 異年齢からの支援を受けることで、生徒同士が教えあい、「学び合いの姿勢」を育む。

家庭科部会



課題

家庭生活および地域社会において必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得し、よりよい生活をつくるために工夫し創造する態度の育成

養護部会



課題

専門知識の充実と、実践的執務の研究

